

# 布教方針『いのちに合掌』における「いのち」について

NVN 奥田正叡

## 1、布教方針について

### 1、第14号 『布教規程』第3条

「本宗の布教は、年度の方針に準拠し、時に臨み機に応じてこれを行い、宗門運動を推進する」  
【規程改正後】

→ 「本宗の布教は、布教方針に基づき、時に臨み機に応じて行う」

①布教方針は年度ごとではなく中・長期的

②宗門運動と区分する

### 2、管区伝道企画会議アンケート結果

①いのちに合掌を継続テーマに

東京西・千葉西・兵庫西・兵庫北・大分・鹿児島宮崎・京都2・秋田 ほか

②天台宗「一隅を照らす」のような不変テーマが必要。「いのちに合掌」を普遍的合い言葉にしてはどうか。

→ 伝道企画会議・内局会議 布教方針 『いのちに合掌』決定

### 3、布教方針策定部会で原案作成

①布教方針『合掌』（平成31年2019年2月16日発行）第5章「いのちに合掌」を基軸に作業開始

②布教方針『いのちに合掌』発行（令和4年5月）

## 2、宗門運動「立正安国・お題目結縁運動」について

スローガン 最終的3候補

「こころ伝える日蓮宗」

「敬いの心で安穏な社会づくり、人づくり」（目標に採用）

「いのちに合掌」（スローガンに決定）

★平成20年(2008)1月22日開催宗門運動本部企画推進会議で決定

「新たなる運動では、この常不輕菩薩の行法を運動の柱として、お題目のご縁をいただく私たちが自ら人を敬い、いのちの尊さを人々に示し、社会を明るくしていこうとの方針が打ち出されています。」(宗門運動本部)「日蓮宗新聞」(平成20年2月10日号より)

宗門運動 「立正安国・お題目結縁運動」

目 標 「敬いの心で安穏な社会づくり、人づくり」

スローガン 「いのちに合掌」

布教方針 「合掌」

いのちについて説明が不明

### 3、スローガン「いのちに合掌」における「いのち」とは

『立正安国・お題目結縁運動』研修ノート但行礼拝から敬いの心へ、そして社会

p 5 2

「かゼロか」という意味での生命であって、生命自体の持つ豊かな内容を捨象し、抽象化された生命でしかありえません。その抽象化された生命に尊厳性を与えるのが、人権を根拠とした生命観だと言えるでしょう。

それに対して、「立正安国・お題目結縁運動」のスローガン「いのちに合掌」では、「生命」や「命」という漢字を使わずに、ひらがなで「いのち」と表現し、抽象化された生命観との差別化を目的としています。そこに意図されているのは、ただ、人間の生命だけでなく、生きとし生けるものすべて、一粒の米、一滴の水のいのちまでも含めた広い意味での「いのち」です。時には喜び、時には悩み苦しみ、お題目の信仰に光明を見だし、人を愛し、別れを悲しみ、時には欲望に突き動かされ、時には自分を律する、そのような躍動する生そのもの、人生、生活そのものをも考慮に入れた、豊かな内容を持った「いのち」です。人権からの発想ではたどり着

いのちに合掌が対象とするいのち  
生きとし生けるすべての「いのち」

けない生命観を表現するために、「いのち」という表現を用いました。「いのちに合掌」とは、苦しみながらも懸命に生きているあらゆる「いのち」に敬いの心をもつて合掌するということで、相手の人の人生をすべて包み込んだ上での合掌礼、そこにまさしく「立正安国・お題目結縁運動」の基本精神が大きく輝くところなのです。

#### b. 自殺問題と自死遺族

わが国における近年の自殺者の増加は、極めて深刻な状況と言わざるを得ません。年間三万人を越える人たちが、自らの命を絶っています。交通事故での死者の四〜五倍に達するほどです。檀徒の葬儀を執り行っている教師の皆さんは、実感として感じておられることでしょう。

そんな中で、最近特に目立つ傾向は、中高年、それも高齢者の自殺の増加です。高齢者と言われる方々は、長い人生の中で家族のために働き、社会

敬いの心で合掌する

合掌礼

## 4、布教方針「いのちに合掌」における「いのち」とは

4つの視点からみた「いのち」の解釈が大事

- 社会的な「いのち」
- 仏教的解釈による「いのち」
- 法華経からみた「いのち」
- 日蓮聖人の教えからみた「いのち」

### ①使命・誓願・目的を持って生きる「いのち」

法華経法師品第十には「この世に願って生まれてくる」とある。

「薬王当に知るべし、是の諸人等は、已に曾て十万億の仏を供養し、諸仏の所に於いて、大願を成就して、衆生を愍むが故に、此の人間に生ずるなり」「諸の能く 妙法華経を受持することあらん者は清浄の土を捨てて 衆を愍むが故に此に生ずるなり」(法師品)

法華経は自業自得の「業生」から「願生」へ転換したいのち。

法華経信仰者は、すべてのいのちを等しく成仏に導くという久遠本仏の誓願を成就する使命を担いこの世に生まれた。つまり、いのちは与えられるものではなく願って生まれ、目的を持って積極的に生きる法華経信奉者の心構えが説かれる。

### ②「父子の関係」(父=久遠本・子=一切衆生) 関係を持った「いのち」

イ「舍利弗、如来も亦復是の如し。則ち為れ一切世間の父なり」(譬喩品)

ロ「我はこれ衆生の父なり。其の苦難を抜き無量無辺の仏智慧の樂を与え、其れをして遊戯せしむべし。」(譬喩品)

ハ「舍利弗に告ぐ 我も亦是の如し衆聖の中の尊 世間の父なり一切衆生は 皆是れ吾が子なり」(譬喩品)

ニ「今此の三界は 皆是れ我が有なり其の中の衆生は 悉く是れ吾が子なり」「舍利弗に告ぐ汝諸人等は皆是れ吾が子なり 我は則ち是れ父なり」(譬喩品)

ホ「譬えば良医の智慧聡達にして、明かに方薬に練じ善く衆病を治す。其の人諸の子息多し、若しは十・二十乃至百数なり。」(如来寿量品)

生きとし生けるものの生命は久遠本仏から授かったものである。それゆえ、あらゆる生命は久遠本仏の永遠の生命に連なり、等しく尊く、悉く成仏すると考えられる。

観心本尊抄)

### ③久遠本仏と同体となる「いのち」 父子ともに久遠のいのち

イ、「仏の言わく、我も亦是の如し。成仏してより已来、無量無辺百千万億那由他阿僧祇

劫なり。」(久遠本仏一如來壽量品)

ロ、「衆生を度せんが為の故に 方便して涅槃を現ず而も實には滅度せず 常に此に住して法を説く」(久遠本仏一如來壽量品)

ハ、「釈尊の因行・果徳の二法は妙法蓮華經の五字に具足す。我等この五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与えたもう」。(觀心本尊抄)

法華經の教主久遠本仏釈尊の生命は永遠不滅である。日蓮聖人は、久遠釈尊の全体を因果と受け止められ、妙法蓮華經の五字に具足すると信受された。また妙法蓮華經の五字を宝珠・良薬・一念三千の仏種などと表現し、末法衆生がこの五字を受持したとき即に成仏し、久遠本仏のいのちと同体になると教示された。

④一念三千の仏種(題目)により「有情・非情のいのち」が成仏する。

「しかりといえども、詮する所は、一念三千の仏種にあらざれば、有情の成仏も、木・画二像の本尊も有名無実なり」(觀心本尊抄)。

え

うみょう

「結局、法華經に内包されている一念三千の仏種でなければ、たとえ有情(心ある者)であればかならず成仏するという教義も、木像や画像を本尊とするということも、ただ名ばかりで、真実とはならない」

★「草木成仏」(参考までに)

① インド思想では草木に心や輪廻を認めない。成仏もない。

② ジャイナ教では草木に靈魂を認めた。

③ 初期仏教では草木に生命・靈魂を認めた。大乘仏教に引き継がれたかは不明。

『中陰經』に初めて「草木国土悉皆成仏」「一切草木皆成仏」の言葉が見える。平安時代に存在したが、現在は所在不明。

④ 『摩訶止観』の「圓頓者…一色一香無非中道」日本天台における草木成仏論の第一の論拠。

一色一香は中道である。圓頓止観では一切が中道(仏性)であると説く。

湛然は草木仏性論を強調した。『金剛婢論』は日本天台宗の草木成仏論に大きな影響を与えた。

⑤ 日本仏教の「草木成仏論」

最澄 天台的理念を内包した

空海 草木成仏を認める

⑥ 叡山法華会における草木発修成仏の論議

安然「胎藏金剛菩提心義略問答抄」

「中陰經」「大宝積經」を引用して草木成仏を認める。

安然以前に此の經文を引用した人は現在見当たらない。

「中陰經云、釈迦成道之時一切草木皆成仏身・宝積經云、文殊

變身子成仏令說法、變本身竟云、一切無心草木樹林可作如來身

相具足悉皆說法、是他依心故亦發心成仏」

以上